

2006年3月13日～14日 甲州アルプス 小金沢連峰

小野木 単独

10年来の念願の、甲府盆地の品が市側に広がる甲アルプスと呼ばれる小金沢連峰へ、避難小屋に1泊で行ってきました。

その湯ノ沢峠避難小屋には電気がありましたが、招かれざる客もいたことも確か、あれはウソかマコトか。

### 1日目 曇り空

上日川峠へ行く道路が冬季閉鎖中のために甲斐大和駅から歩きだす。軽特印で水3ℓを補給、方はずしりと重さを感じながら稜線へと出ると、そこからアップダウンの繰り返し。それも生半可ではなく、これが結構きつかった。

途中から雪道になりルートファインディングが必要な箇所もあり、誰にも会わず気を使いながら、本日の宿湯ノ沢峠避難小屋に這う這うの体で到着。

結局水は得られ、3ℓを担げあげたのは単なる歩荷で終わってしまう。

深夜3時、足音がしドアが開けられライトで照らされた。ええっこんな時間にだれ、と思うもすぐに出ていき誰かわからぬまま朝を迎えると、外にはそれらしき足跡がなく、あれはほんとに人だったのか。

### 2日目 快晴

昨日とは打って変わっての快晴、いきなり白谷ヶ丸への急登に苦しめられるが、山頂は富士山の大展望であった。

この日は昼過ぎまで雪のなかを歩き、アップダウンもひどく足を取られ、コースタイムよりも時間を要した。

相変わらず誰にも合わない。ようやく上日川峠まで来て数人の登山者に会い、人との会話っていいなあと思うのであります。

営業していたロッジ長兵衛でコーラを一气飲みでゲホッゲホッ。

これで調子を取り戻したのか、裂石までの長い下りを難なく通過。

やっとのことで大菩薩の湯に到着し、生気を取り戻したのであります。

人の記録を読むと簡単なように歩いていますが、かなりハードで雪が残り、これでもかこれでもか、と言うぐらいに登られます。エスケープするにも道路は通行止めで前進するしか方法がなく、きつかった。

10年来の念願でしたが、1回でいいわあと思った山行でした。